

いろいろ発見 高砂

さあ、出發だ！

高砂堀川

さいはっけんちず

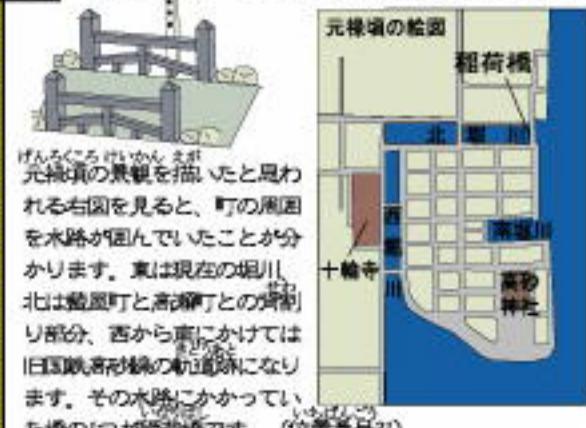
再発見地図 (あ行)

あい屋町は卯建のまちなみ！



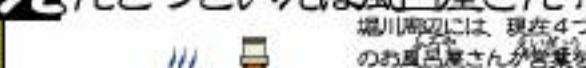
東から高砂町に入ると、**あい屋町**の卯建のまちなみを見ることができます。卯建とは、茅葺下に設けられた袖壁のことです。火災の延焼を防ぐために設けられたといわれています。昔屋町のこの通りはかつて、物資の流通の要として、とても盛んでいた所で、現在は県道高砂港線（日光国道）となっています。（位置番号18）

元橋の橋、昔の堀の橋なんだ！



元橋頭の景観を描いたと思われる右図を見ると、町の周囲を水路が囲んでいたことが分かります。東は現在の堀川、北は鶴居町と高砂町との境割り部分、西から東にかけては旧国鉄高砂線の跡地になります。その水路にかかる1つが昭和橋です。（位置番号37）

お町俱楽部はレトロな洋館！



高砂町俱楽部は、高砂における近現代の成績を感じさせる木造洋館です。この建物は、三菱製紙員の御宿原生会館として活用されており、現在もよく手入れされています。

庭には大きな木がたくさん植えられており、洋館とあいまって周囲とは異なった空間となっています。（位置番号19）

なんといえば風呂屋さん！



堀川周辺には、現在4つのお風呂屋さんが営業を行っています。その一つにレンガ造りの煙突を持つお風呂屋さんがあります。木造の建物の周辺には煉瓦のマキモ等があり、昔ながらの風呂屋の風景をみることができます。

昔は、夕方になると仕事を終えた人々が、風呂屋を持ってお風呂屋さんへ向かう姿をちらちらで見ることができました。

隣近所の人々の世間話で、穏やかで楽しいお風呂屋さんはコミュニケーションを育む良好の場所となっていました。（位置番号4）

ひとつ、びっくり舟板の再利用！

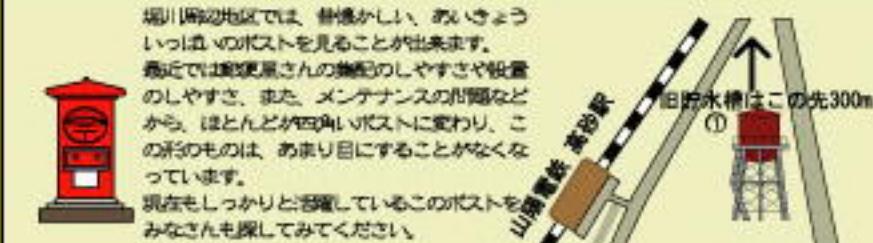


高砂は舟運として栄えたまちでもあります。そのため、舟板を再利用して壁などにしている昔ながらの建物を見ることができます。中でも舟板が使われておらず、高砂の町家の特徴をよく確認する事が出来るのが工芸館です。我が国の伝統的な改修をしたことで知られる工芸館の門とゆかりのある町家は、門の外壁に舟板が再利用され、表面は黒漆喰で塗られた土蔵造りで、虫籠窓を持つ重要な建造物です。（位置番号21）

絵図番号の説明

- 1 トンガ・扇根とも日本の鉄道をもつ日本水塔
- 2 ショッピングセンター・サンモールのオブジェ
- 3 旧国鉄高砂線のレールのやり替えモニュメント
- 4 レンガの煙突を持つお風呂屋さん「梅ヶ枝屋」（え）
- 5 旧国鉄高砂線の蒸気機関車の牽輪のモニュメント
- 6 平安時代に創建されたお寺「十輪寺」
- 7 昔ながらのきれいな町が残る魚町
- 8 曲線を描く扇根を持つモダンな洋館「松本家」
- 9 モダンなデザインの「三ツ星化学」
- 10 舟やかな向こうの軒向横「竹軒長屋」
- 11 時代を感じさせる「銀座商店街入り口のゲート」
- 12 銀行として活躍していたギリシャ風の通性を持つ「高砂橋工合會事務所」
- 13 南蛮貿易などで活躍した「天竺徳兵衛のお墓」
- 14 高砂の経済、鉄道開業頭のお店「柴田正堂」
- 15 貴重な木造洋館「魚町浪速銀行」（う）
- 16 町家の強い見方「高砂市の消防分署」
- 17 祭りまで出番をじっと待つ「屋台倉」
- 18 鮎町の「卯建のあるまちなみ」（あ）
- 19 高砂の名産、燒き穴子のお店「下村商店」
- 20 よく手入れされた立派な倉が並ぶ「松本家」
- 21 もしかしながらの繩張の町家「江美園」（お）
- 22 昔の映画館、東照館の一部残るレンガ壁
- 23 通りの中にお宮を持つ「西宮町の社広場」
- 24 燐造板を使った扉を設けた「東宮町の通り」
- 25 東宮町の「恵比寿神社」
- 26 相生の松でも知られる「高砂神社」
- 27 レンガ倉庫
- 28 高砂港周辺の「漁村のまちなみ」
- 29 港の先端に建つ美しい建物「大崎館」
- 30 昔の町家の様子がよく分かる「花井邸」
- 31 昔あつた風にかかっていた「稻荷橋」（い）
- 32 東から高砂に入る時に通る「永楽橋」
- 33 三菱製紙高砂工場の「レンガの建物」

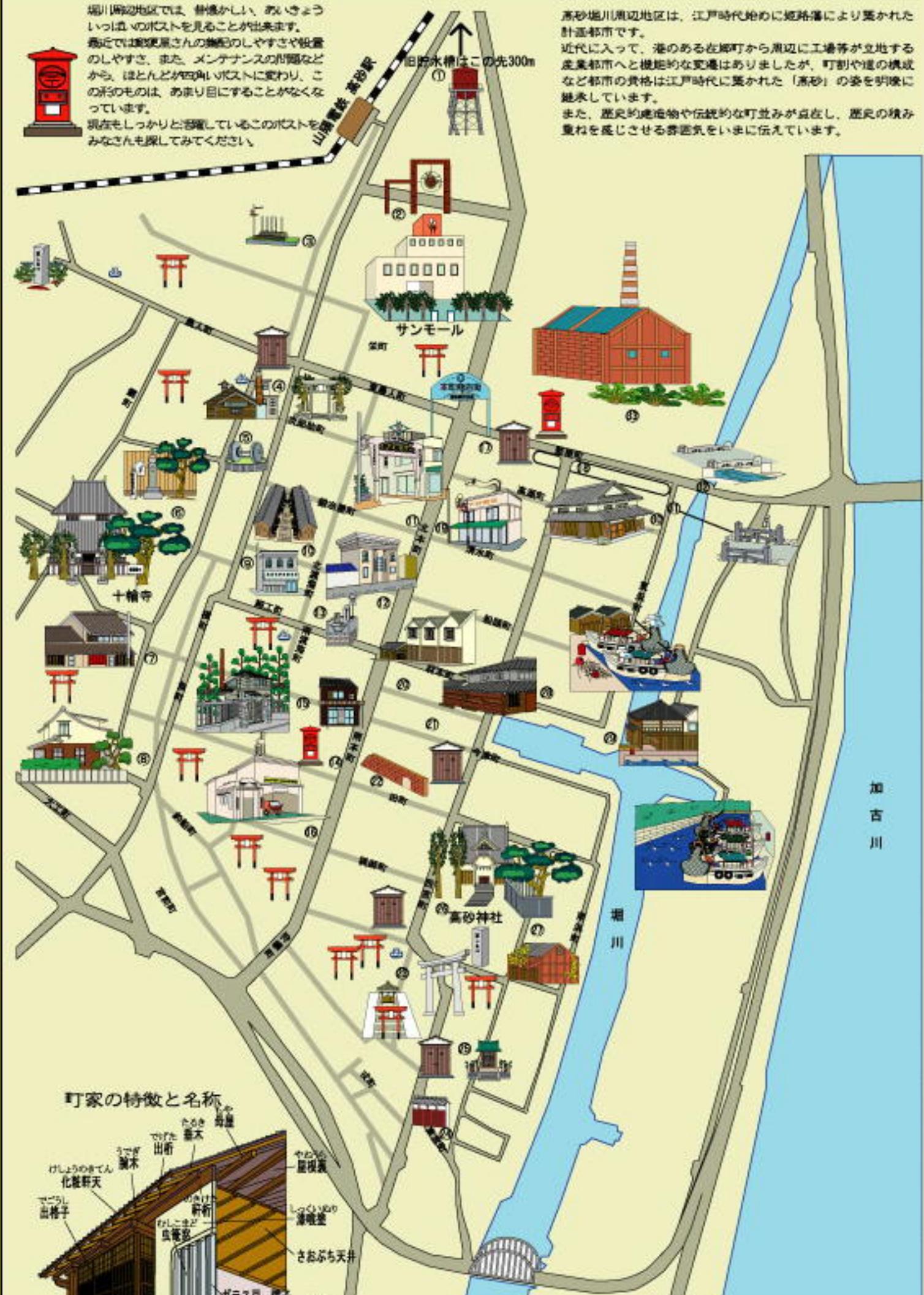
堀川周辺地区では、昔懐かしい、古いちょうどいい風のバスを見ることが出来ます。最近では御里屋さんの施設のしやすさや設置のしやすさ、また、メンテナンスの問題などから、ほとんどが四角いバスに変わり、この形のものは、あまり目にすることなくなっています。現在もしっかりと活躍しているこのバスをみなさんも探してみてください。



高砂堀川周辺地区は、江戸時代始めに姫路藩により築かれた計画都市です。

近代に入って、港のある佐津町から周辺に工場等が立地する産業都市へと機能的な変遷はありました。町割や道の構成など都市の骨格は江戸時代に築かれた「高砂」の姿を明確に継承しています。

また、歴史的建造物や伝統的な町並みが点在し、歴史の積み重ねを感じさせる雰囲気をいまに伝えています。

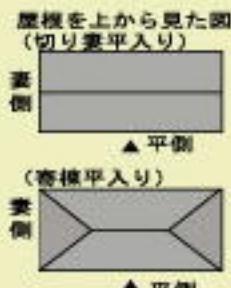


町家の特徴と名称



次のポイントを確認しながら、まち歩きを楽しもう！

1. 屋根の形は？
切妻平入りが一般的。角地などでは、工芸邸のよう
に寄棟平入りとなっている場合もある。



2. 屋根仕上げは？
積瓦葺きが多く、本瓦葺き
も数件見られる。軒裏は化
粧天井と言って腕木や垂木
を見ることが出来るつくり
になっている。
(桃瓦葺き) (本瓦葺き)



4. 室や玄間に格子戸は？
格子戸は「階の室や玄間、2階
の出窓などにつけられ、これ
が連続することで美しい町並
みが形成されている。」

5. 建物の高さは？
2階建ての建物が多いが、2階
部分の高さに特徴があり、一
般に2階部分の高さが低いも
のの方が、建築年代が古いと
いう特徴がこの地区では見ら
れる。

開 作 堀川周辺のまちなみを考える会 (デザイナーマチの再生デザイン室 山本直実)
開 行 高砂市都市整備部計画課 0794-43-9033(直通) 製作年月日 平成16年2月